

5. まとめ

岐阜県下の日降雪の深さを地表気圧配置の型によって分類し、平均値を求めてみると次の5種類の型にわけられた。

- | | |
|-------------|-----------|
| A型；強い季節風型。 | D型；北高型。 |
| B型；中位の季節風型。 | E型；その他の型。 |
| C型；弱い季節風型。 | |

したがって、この5種類別に、岐阜県下の各観測所ごとの平均日降雪の深さ、標準偏差、日降雪の深さの発現率および1冬あたりの日降雪の深さの平均発現日数を算出した。その結果、岐阜県下の日降雪の深さは季節風が強いほど深くなると同時に日降雪の深さがおきやすくなり、季節風が弱くなると日降雪の深さは浅くなって、県南部、特に美濃平野東部では日降雪の深さがみられなくなる。北高型では飛騨では弱い季節風の時よりやや深い程度の日降雪の深さが一様に分布し、美濃平野部では日降雪の深さがみられない地域がひろがって、雪が雨にかわることを考慮する必要を感じさせる。また各型を通じて山間部に日降雪の深さが深くなっていて、日々の変動

も大きく、また日降雪の深さがおきやすいと云う結論が得られた。

6. あとがき

気圧配置による降雪量の違いが明らかになったので所期の目的は達せられた。日々の気象現象が気候的な条件にも大きく作用されると考えれば、降雪予報にとって、これらの結果は十分に有用な情報を与えてくれるであろうし、また将来、予報のカードシステムにこのような方法も取り入れたいと考える。末尾ながら御指導をいただいた理学博士正務章岐阜地方気象台長および便宜のお取り計らいを願った吉田忠孝同気象台技術課長に厚く御礼申し上げる。

文 献

- 古田 章, 1970: 小気候区の区分について。研究時報, **22**, 32-35.
 奥村広二, 1966: 季節風雪の予報について。天気, **13**, 161-167.
 安井春雄, 加藤久雄, 1953: 名古屋の雪。研究時報, **5**, 379-392.

定款の一部変更が認可され会費が昭和50年1月から変わります

会費値上げのための定款改正は、5月22日の総会で議決され、かねて文部大臣あて認可申請中のところ、7月13日付け委学第3の28号で認可になりました。

昭和50年1月1日から会費が下記のとおり変更になりますので、お知らせします。

区 別	新 会 費			
	一般会員	学生会員	外国在住 会 員	
通常会員	A会員	3,200円	2,000円	3,900円
	B会員	6,400円	4,000円	7,800円
外国人会員	A会員	3,900円		
	B会員	7,800円		
団体会員	A会員	4,920円		
	B会員	9,840円		

第18回評議員の就任について

第18期の第1回理事会(49年7月15日)において、第18期の評議員を下記8名の会員にお願いすることになりました。

1974年8月

記 (アイウエオ順)

有住 直介, 大田 正次, 柿崎 英一, 杉浦 次郎
 須田 建, 毛利圭太郎, 山崎 正博, 山本 義一